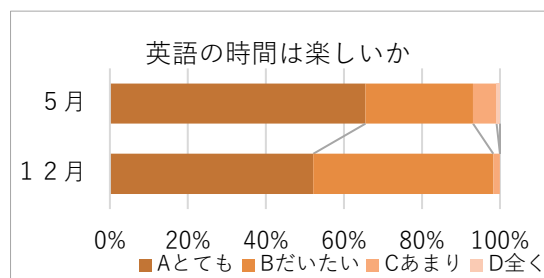


IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

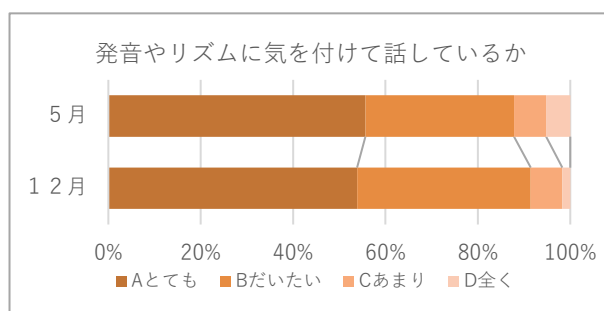
(1) 仮説1 「①興味・関心を高める必然性のある場面設定」

意欲を高める題材、場面設定の工夫に取り組んだことで、児童アンケートでは「英語の時間は楽しいか」の問いに、「とても」「だいたい」と答えた児童が5月、12月共に90%を超え、さらに12月には98%に達した。これは、単元を通して児童の興味・関心を高めることができたからと考えられる。



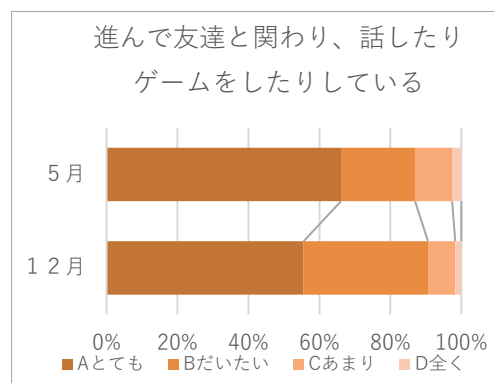
(2) 仮説1 「②英語に慣れ親しませるための工夫」

英語指導員やALTの活用により、児童が英語の音声やリズムに慣れ親しむことができた。アンケートでも「英語の発音やリズムに気を付けて話している」という問いに対して「とても思う」「だいたいそう思う」という答えが90%に達し、特に高学年においては5月よりも7.4ポイント増加している。チャンツやゲームなどで、授業の中で繰り返し発話に取り組んだ成果と言える。

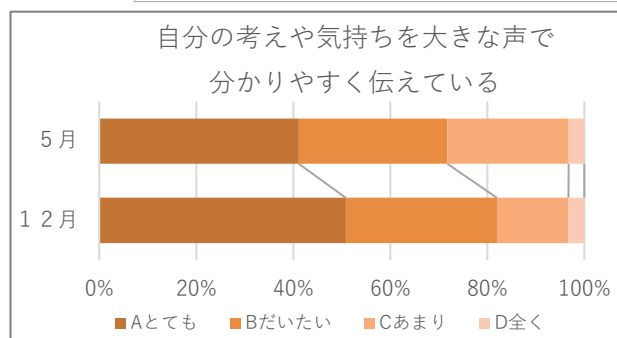


(3) 仮説1 「③コミュニケーション活動の工夫」

進んで友達と関わり、話したりゲームをしたりしているか」の問いに対して、「とても」「だいたい」と回答した児童は5月よりも3.7ポイント増加している。積極的に参加し、コミュニケーションをとろうとしている姿が窺える。



英語の授業以外でも、進んで自分の意見を発表したり、相手意識を持って分かりやすく伝えたりしようという意識が高まってきた。コミュ

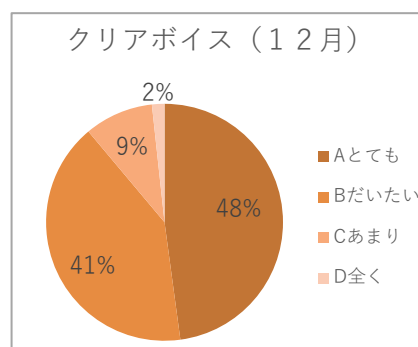


ニケーションのポイントが、様々な場面で生かされ、児童の力になっている。

(4) 仮説1 「④評価の工夫」

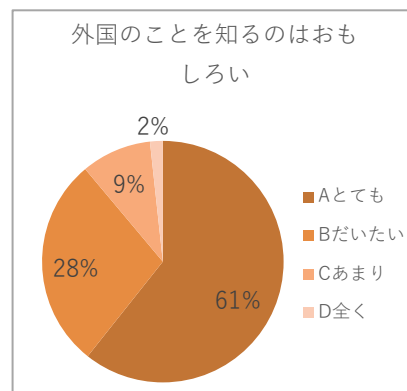
活動途中の中間評価によって、児童がコミュニケーション活動のポイントを意識し直したり、自信や意欲を高めることにつながったりすることができた。

また、毎時間の振り返りカードによって、コミュニケーションの視点として設定した Smile、Eye contact、Clear Voice、Reaction、Gesture の5点を、児童が意識して活動することができ、コミュニケーションのスキルが高まった。



(5) 仮説2 「文化や言語に興味・関心をもたせる言語環境の充実」

英語での校内掲示を行ったことで、児童は日常的に英語に触れることができた。校内行事の掲示は、6年生の単元でも活用した。また、月の歌に英語の歌を設定して学級の朝の会や全校集会の中で歌ったり、英語の本の読み聞かせに取り組んだり、日常の中で言語や文化に親しむことができた。その結果、外国の文化に関するアンケートでは、「外国の言葉や外国のことを知ることは面白いですか。」という問いに対して、「とても思う」「だいたいそう思う」という答えが約9割に達した。また、「何のために英語を学習すると思うか(自由記述)」には、「もっと外国のことを知りたいから」「外国の方と積極的に交流したいから」という回答が多かった。このことから、外国への興味・関心が高まったと言える。



2 今後の課題

- 右のアンケート結果より、児童が英語で自分の気持ちを表現しきれない現状がある。いろいろな表現に慣れ親しみ、繰り返し対話をする時間設定が必要である。
- 身に付けたコミュニケーション力を、生活の中で生かすことを意識する必要がある。

